

不適切な画像投稿問題から考えるメディアリテラシーの授業

聖母被昇天学院中学校高等学校 岡本 弘之

要旨 情報科の授業において、昨年夏に頻発した若者によるSNSへの不適切な画像投稿問題を取り上げ不適切な投稿が起こる背景や、投稿者が特定される仕組みについて、話し合わせ、考えさせる授業を実践した。高校生の多くがSNSで情報発信をしている現状において、不適切な画像投稿をおこさないためにも情報発信のメディアリテラシーを育成することは重要である。

1. はじめに

2013年7月の「コンビニエンスストアの冷蔵庫に入った画像を投稿した」事件以降、若者が不適切行動を写した画像をSNSに投稿し、拡散され問題化する事象が多発している。

背景にはスマートフォンなど、誰でもどこでも簡単に情報発信できる環境が普及する一方、情報発信の影響力や責任といった発信者として必要な知識が不足していることがあげられる。

この現状をふまえ、勤務する高校の情報科の授業において「不適切な画像投稿」の事例を取り上げ、その原因や背景を考えることから「発信者」としてのメディアリテラシーの育成を目指した授業を企画・実践した。

2. 授業の実践

2.1 授業のねらい

「不適切な画像投稿」をおこさず、賢く情報発信ができる力を育てるために、授業は実際の事例を題材に、以下の目標で企画し、授業を展開した。

- ① 問題行動の画像投稿の背景を考える
- ② 事例から情報発信の責任を知る
- ③ 個人情報が漏れにくい情報発信を考える
- ④ 自分の情報発信について考える

授業の進め方としては一方的に教え込むのではなく、生徒自らが「考える」「話し合う」活動を多く取り入れ、この話し合い結果をもとに、授業者が知識を整理し補っていく形とした。

2.2 授業の展開

授業は勤務校の高校2年生(女子)の情報Cの授業の中で、2時間を使って実践した。

2.2.1 不適切な画像投稿の背景を考える

実際に起こった「不適切な画像投稿」の事件を2つ紹介し、これらが起こる原因・背景について考えさせた。

まず個人で原因を3つ考え、さらに4人班で付箋を使って話し合い、KJ法で整理した結果を、1分程度で全体に発表し、分析を共有させた。

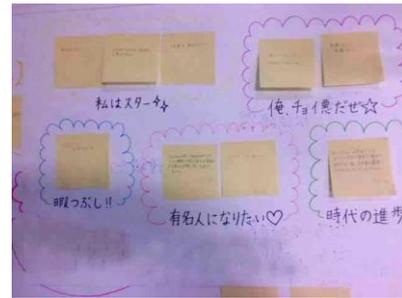


図1 生徒が原因をKJ法で整理した画用紙

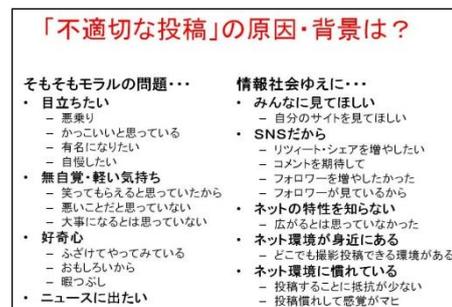


図2 生徒の話し合い結果のまとめスライド1

問題行動の画像投稿の原因として、生徒の意見は「目立ちたい」「軽い気持ち」といった(インターネットとは関係がない)投稿者のモラルの問題と、「仲間内でしか見えないと思っていた」という情報発信への知識不足・「ネット環境やカメラが身近にある」という情報社会ゆえの問題の二つの要因をあげていた。

その中で納得させられたのは「反応が目に見えるSNSゆえに、起こった問題では」という意見であった。「リツイート、フォロワー、コメント、シェア、いいね」といった反応が返ってくるSNSゆえに、投稿者は反応が期待できそうな投稿をしてしまうという意見である。

生徒たちが、話し合いで事件の原因・背景を考える中で、自分たちにも同様の経験がないか振り返り、また問題行動の画像投稿をおこさないために「情報発信には慎重さが必要」「SNSでも投稿すれば拡散する可能性がある」という知識をこの実習で得ることができた。

2.2.2 事例から情報発信の責任を考える

画像投稿の結果、お店はどのような影響(被害、損害など)を受け、投稿した人自身もどのような結果となったか(損害賠償、個人情報さらされるなど)について、先ほどの事例のその後を説明し、情報発信の影響・責任について知識を与えた。

2.2.3 個人情報が特定される仕組みを考える

「バカッター」「バカ発見機」などインターネット上で「不適切な画像投稿」を探し保存・公開しているサイトや、インターネット上の「特定班」とよばれる人たちが、これら「不適切な画像投稿」をした人物の個人情報を特定し、掲示板などにさらしている構造・現状を説明した。(もちろん特定班の行為についても違法性が高いことも補足した)ここで Twitter のような匿名の投稿から個人情報がどのように特定されるのかについて、先ほどと同様の手順で、考え、話し合い、発表させた。

個人情報をどう特定するか？	
・ 位置情報から - ツイート・投稿時 - 写真から	・ フォロワー・友達から - 交友関係から学校、年齢、地域の特定
・ 投稿された写真から - 位置情報 - よく行く場所の特定 - 制服	- 友達との会話で名前があるときも - 1人が学校名を出していたら特定できる
・ プロフィール - あだ名、住んでいる地域 - ブログのURLから - ニックネーム・IDから	・ 過去の投稿を遡る - つぶやき、会話から ・ 他のサイトも調べる - 同じIDで他のSNSも調べる

図3 生徒の話し合い結果のまとめスライド2

位置情報、画像、プロフィール、過去の投稿といった本人の情報を組み合わせると特定できるという意見と、生徒が多く指摘したのはフォロワー・友達から学校・地域・年齢が特定できるというものであった。

具体的には「コメントに〇〇ちゃんとはびかけがある」「1人くらいプロフィールに学校名・地域を書いている人がいる」という例があがった。自分がいくら気をつけていても、友達やフォロワーの情報から芋づる式に個人情報が漏れてしまうという指摘である。

生徒たちは、この実習の中で単に「個人情報が特定されやすい情報が何か」を知るだけでなく、「友人のためにも個人情報を書きこまない方がいい」ということに気づくことができた。

2.2.4 個人情報が漏れにくい情報発信を考える

ここでの気づきをもとに「情報発信をする際に個人情報が特定されにくくするにはどうすればいいか」について授業者が知識をまとめた。

次に自分の IP アドレスを調べる実習から、捜

査機関は IP アドレスから個人が特定可能ということを確認させ情報発信の責任を考えさせたり、自分の名前を検索エンジンで確認させる実習を行い、知らない間に自分の個人情報がヒットしないかについても確認させた。

2.2.5 自分の情報発信を考える

情報発信の注意事項の知識の整理として、ここまでの話し合いで「インターネットの特性(誰でも見る事ができる、消すことができない)」と「発信に伴う責任」をワークシートに記入させた。そして注意事項を知った上で、より有益な情報発信について考えさせるために「どのような情報を SNS・ブログに載せればいいのか」という話し合いをさせ、KJ法で整理、全体に発表させた。

3. まとめ

生徒の授業の振り返りから、今回の授業実践の効果は次の3つに整理できる。(「 」は代表的な生徒の記述内容)

①情報発信の責任を理解できた

「情報発信・写真を載せるリスクを知れた」

「軽く投稿せず、よく考えて投稿すべきと感じた」

②個人情報が漏れにくい情報発信の知識を得た

「待ち合わせをつぶやいていたので気をつけたい」

「個人情報を出しすぎることは友達にも迷惑をかける」

③情報発信をうまく利活用する方法を考えた

「(他人が)知りたい情報発信し、ネットをいいものに変えていきたい」

「(他人が不快となる)批判的なことは言わない」

今回、実際に起こった「不適切な画像投稿」の事件を取り上げた授業は、背景を考えることから自分の行動を振り返り、また新たな知識を得ることができ、自分がどう利活用していけばいいかを実践的に学ぶことができる授業となった。

高校生の多くが SNS による情報発信を行っている中、「不適切な画像投稿を行う生徒を作らない」という消極的な目標で情報モラルを教えるのではなく、賢く情報発信を行うという積極的な目標を立て、「情報発信についてのメディアリテラシー」を育てることは重要である。本実践がこのような力をつける授業の参考になれば幸いである。

(情報科の授業アイデア : <http://www.okamon.jp>)

参考文献

(1)岡本弘之(2014)「SNS で問題行動の画像を公開することについて考える」(公財)学習ソフトウェア情報研究センター「学習情報研究」5月号 pp.20-21